

# ナース・プラクティショナーの養成課程一覧

## 大学院修士課程

平成20年度	・大分県立看護科学大学（プライマリ; 老年/小児）
平成21年度	・国際医療福祉大学（プライマリ、クリティカル）
平成22年度	・東京医療保健大学（クリティカル） ・北海道医療大学（プライマリ）
平成23年度	・東北文化学園大学（クリティカル）
平成24年度	・藤田医科大学（クリティカル）
平成25年度	・愛知医科大学（クリティカル）
平成29年度	・佐久大学（プライマリ）
平成30年度	・山形大学（プライマリ）

年度：日本NP教育大学院協議会への入会年度

# ナース・プラクティショナー資格認定試験合格者

## 平成23年3月 第1回 NP資格試験

	プライマリ	クリティカル	合計
第1回(平成22年度)	10(老年10)		10
第2回(平成23年度)	17(老年14/小児3)	20	37
第3回(平成24年度)	14(老年14)	32	46
第4回(平成25年度)	9(老年9)	37	46
第5回(平成26年度)	14(老年13/小児1)	42	56
第6回(平成27年度)	13(老年13)	41	54
第7回(平成28年度)	10(老年10)	33	43
第8回(平成29年度)	8(老年8)	59	67
第9回(平成30年度)	11(老年)	47	58
合計	106(老年91/小児4)	311	417

ナース・プラクティショナー資格更新(5年毎)  
令和2年度(2020)からスタート

## 【患者からの評価】

- 在宅療養が継続できる(じょく瘡の処置、薬物の選択・調整、人工呼吸器の管理、輸液管理、胃ろう、膀胱ろうの管理など)
- 慢性疾患を持つ患者に対する病状に関する十分な説明が受けられる
- 患者に対する術前・術後の医療処置に関する説明が十分受けられる
- 患者・家族への検査や医療処置などに関する説明が十分に受けられる
- 患者・家族が理解できるまで何度でも繰り返し聞くことができる
- クリティカルパスに示された処置が患者の症状に合わせて受けられる

## 【医師からの評価】

- 診療科の医師数が大幅に減少した時期においても、診療を持続することが可能であった。
- 医師が手術などで不在の場合、診療を滞りなく進めることができ、医師の時間外労働が短縮した。
- ナース・プラクティショナーが代行入力や文書作成などを行うことで、医師でなければできない業務に専念することが可能となった。
- 救命救急センターでは、ナース・プラクティショナーが2次救急に対応することにより、医師は3次救急に専念できるようになった。
- チーム内で余裕をもった勤務シフトを組むことが可能となり、緊急手術や救急患者に迅速かつ柔軟に対応が可能となった。

## 【看護師からの評価】

- フィジカルアセスメントなどの知識・技術が向上した
- 医師と看護師などの医療従事者間の意思疎通がスムーズになった
- 医師には聞けないことも気軽に質問できる
- いつでも相談しやすい

(日本NP学会学術誌、学術集会抄録集から抜粋)

# 医療現場はどのように変わりつつあるか

添付資料4

- 患者満足度の向上
- 医療安全の担保
- 医師は医師の仕事に専念できる
- 看護職のスキルの向上
- 医療職間の壁がなくなることによる「チーム医療」の実現
- 就労環境の改善(過重労働・時間外労働の削減)
- 医療費の削減

など